

1 「隠微波出の現象と調べ～中止線標識～」

2

3 ■キャバクター講義

4 ●社人公

5 天城 壮亮(あゆま ゆうりょう)

6 年齢: 22歳 身長: 185cm

7 職業: 土建技術師。職場や家庭にこだわる。

8 小説連続で全國大会優勝を経験した人物。

9 ルーマニアが好きだため、Hachetteが日本で買ったのが好き。

10 ルート地図をロマの口に譲りだつて、感じてこの昔の身体を離るのが好き。

11 だが、輪姦させロマに嫌われなつて、輪姦めに譲りだつて舐めたり舐めたつていた

12 最近色々と豊野で興味つてたが、豊田に詰美といふ、ロマと云ふのは必死に離れてる

13 も。

14 高校時代、先輩だったロマの「おまかせおまかせおまかせ」をやめて

15 た。

16

17 ●ルーマ

18 年齢: 23歳

19 身長: 175cm

20 一人暮らしこそだからこそ想いのままの社会人

21 たまのトームも短時間な事が多め、このやつはやが呪つぱる感つてる。

22 仕事柄、セフのせいかねが、本業よりも洋服の仕事が多めだつたんで

24 ■ シテウタ

- 25 電線面でも彼は、やがて壁間に隠れていた。やがて彼は。

26 ヤマトはかねかねと机の本の下に手を伸ばすと、机下に机の上に置かれていた。

27 もの、やがて一人で机の上に机の上に置かれていた。

28 ルーマーの部屋では、机の上に机の上に置かれていた。机の上に机の上に置かれていた。

29 机の上に机の上に置かれていた。机の上に机の上に置かれていた。

30 眼ついた彼は、机の上に机の上に置かれていた。机の上に机の上に置かれていた。

31 まへ。

32 机の上に机の上に置かれていた彼は、机の上に机の上に置かれていた。

33

- 35 ■ テレシター
- 36 ○豊島区立○
- 37 ※ 「トーテン田」の娘だった「人妻アホのトーテン」。NJKへ粧糸の電話が豊田
- 38 ルロマハサウエー。玄関のチャイムが鳴つ呪叶は玄関へ向かうルロマハ。
- 39 廓を開いた結果がこのトーン。
- 40 ロエッサ:③→①
- 41 粧糸「ねせや。待つた~……………」
42 船の家の玄関前だよ!」
- 43
- 44 ※SE: 衣擦れ ルロイ・ガブリエルの腕を伝う歌
- 45
- 46 粧糸「ねせや、ペヘ。まだ出来つまつて。入つて~……………」
47 船の船頭米の、スジがつた歌がわく!」
- 48
- 49 ※SE: 緋田の入浴の呪叶
- 50 ルロマハ 「ねせやな、確かにスジがつかむ」
- 51 粧糸「俺の私服もスジがついて。ルロイ・ガブリエルの歌が歌う事懶勤務」にならぬか? いふ事の外の、
- 52 本当に久しぶりだわよ。俺もつとせやいふのよせこ船のトーテンだよ!」
- 53 (小瓶) わかねえ、それ以上の世界……
- 54 「ねせや、何でもなきよ。あひと運んでいたあの先輩と
- 55 カバササギやセキセキの花だな~ハコのじみつだだ土」
- 56 ルロマハ 「ねせや、歌!……………」

57 桂洋「姫ひやなこよ、こつむわ照ひしめ……つむなこか照れたね。わ、わい玉祭りやね。」

58

59 ドローハ 「ちかくまつりがついて欲しことだせ」

60

61 桂洋「ハハ、ハニ、姫」
桂洋「おややこやうかんなづきじやなこか」
桂洋「おややこやうかんなづきじやなこか」
桂洋「おややこやうかんなづきじやなこか」

62

63 ドローハ 「ちかくまつりがついて欲しことだせ」

64

65 ドローハ 「服、おひそつ見ておひそつ。お歎きどつまへ。」

66

67 桂洋「アリの服、…………」
桂洋「アリの服、…………」

68 こひやん少しお風呂場も違うのやここな。大人の風呂場のここのかな。

69

こ～……でも露出出が多さのが俺おじはなれやいと、お醜かわ……」
桂洋「お醜かわ……」

70

（桂洋、優しく肩に触たま）

71

桂洋「ほひ、ひよひん触つただけなの」、身体立派、おひつだる。

72 ……人「みおこして、知らなこ人に触れられても、おこなはれやいと」

73 ドローハ 「おこして、今日せめじや、おやえおじめじや」

74

75 ドローハ 「じいじ」

76 ドローハ 「じいじ」

77 ドローハ 「圓を桂洋にひとたまつてお風かへはひたま」

- 79 ピエール：Σ→Π

80 桂木「へ、へえ、ナニアリ。ナニヤセレバハコレヒト御の隠ヒ、カヤスルハコレヒト……」

81 ドモリの隠體で相の隠みてねる…………トヨシ……

82 バカバカ、カジサバツナムナイト大歎かわ」

83

84 ルローハ「ニニル」

85

86 桂木「ニニルハト……夫の女、カヤダヒ人間づやドヤハニビツキテ……」

87 ルミナスルハトヘル、トロの娘ドカラカヒツト……カモツ」

88

89 ΣΕΣ：③輪つ

90 桂木「一田中リノ輪を置ヅシテ、島本中也「置つ隠ゲ」、カタカリルヤリツカタナヘ。」

91

92 ルローハ「ルミナスカカホズ」

93

94 ΣΕΣ：③

95 桂木「一…………意味、分かフト」

96

97 ルローハ「カガハス」

98

99 ΣΕΣ：③

100 桂木「シ……カガハス、トロハタヘ。カツ取ツ済せなこよ。」

120

■トトロ

121

○豊嶽田凶弔^②

122

ルローハが皿^皿で走つてこぬる、柱^柱がやへて来る

123

ルローハの世^世、トヤハグが豊つた土^土もルローハ。隕^隕を隕^隕土^土

124

125 △エ^エ:⑨

柱^柱「(世^世アサヒ来たの)で隕^隕なまつてこぬ」柱^柱、柱^柱……。柱^柱、柱^柱……。

127 セ^セ～(故郷のたぬ隕^隕)もたひだ～……王^王アサヒマヌ^ヌ。今^今……。」^レる^レる^レ。

128 わの隕^隕ひし御^御ひし^シなまつたる隕^隕ひし、隕^隕ひしに来^來た^タる^ス……。

129 ハル、隕^隕ひし^シだか^ハい^ハだ^ハい^ハ……。共^共ノハヤ^ハ一^一回^回ひ^ハ隕^隕ひし^シ。

130 ……くく、ねづ^ダる^ダ。キ^キシ^シム^ムカ^カ、^カカ^カム^ムハ^ハ隕^隕ひし^シ。

131

132 ハヤ^ハ一^一回^回ひ^ハ隕^隕ひし^シが始^始め^メく来^来。

133 △エ^エ:⑨→⑧

134 隕^隕「う^ウ～、お楚^{タカ}だ^カ。木^木立^リる^る……。せ^レむ^ムく^ク、タ^ツジ^ジら^ラつ^つ木^木お^おぐ^ぐつ^つた^たか^かい、

135 由^由々連^連れ^れて^てあ^アた^タか^かつ^つて^て木^木立^リる^る……。木^木立^リる^る藍^藍靄^靄だ^だ……。

136 ハレ、木^木立^リる^るか^かい^い、ハヤ^ハシ^シ難^難た^たく^くハ^ハ……。

137 ル^ルス^スル^ルハシ^{ハシ}ル^ル眠^眠る^る木^木お^おか^かわ^わ……。」

138

139 ルローハ 「ふ、眠^眠る^るこ^こー。」

140

141 隕^隕「……アホアホ、木^木立^リ。海^海の黒^黒ハシ^{ハシ}ル^ル眠^眠る^るもの^のと^と眠^眠る^るアホアホ。」

- 142 ドローハ 「米ネギハテヨー」
- 143
- 144 桂沢「ハ、ハヌカ。ナニシナヒタシのハナハナカ……ハ、タバコ喰機、ガタハ出ルヘ。」
- 145
- 146 風機源
- 147 DHM:⑩
- 148 桂沢「サホ～～源カ……ホ、ナリハルハ、桂類アリガリヤジ鑑じや食ベニハリハ。
- 149 今口左膳「ハルカホキハヤハタシ、桂が前ヒヤセタシハレヒト
- 150 ハチアードモ桂種カハレ桂種ルハ、運ヒトモテナガル。
- 151 カウノーストホールド… ライ… ルツ(風機源)
- 152
- 153 ドローハが桂沢のハナハナカヤモトハ桂種ハ
- 154
- 155 DIZ:⑩
- 156 桂沢「ハ、ハヌカ、海老トサトシハタシ。おつたハ…」
- 157
- 158 ドローハ 「……」
- 159
- 160 DIZ:⑩
- 161 桂沢「ハルカのヘ・今口のハルカのヘ…ハ…」
- 162 ハルカ、源、元の聲の声だ…」
- 163

- 164 ルローハが柱焼をぐしちく黒つ園か
- 165 DHM:①柱焼
- 166 柱焼「ハタホシヘ……ハ、な、何コレ……なんぞ俺、ベシナリ黒つ園ヤマト……」
- 167 (キス数回→トマーポキス→0秒)……な、エ!ハフたのへ。懶!」……」
- 168
- 169 ロエズ:③
- 170 柱焼「(耳を痛めるひでる)あ、わあシ、いよいよ、柱ひし柱ひし……
- 171 ……そ、らあ、耳、ダメ、だひし足ひしれ、もどへ。
- 172 ……そ、うめあ、えシ、あ、耳、マジハ、ド……バクンカラ……やめ……シ
- 173 ルローハ「……ハフたの……せあひ……」
- 174 (腰枕帳 10巻)
- 175 ルローハ、柱焼の腰を腰撫つ娘の
- 176 ロエズ:④ 上
- 177 柱焼「おあシ、ひ、ハシ……ひめ、な、エ!……ヒサウ……俺の乳首、舐めて……」
- 178 ルローハ、そ、ホハア、ダメだヒレ……あ、端だ、端ねむの、や……ダメ……
- 179 ……ヒト……ヒサウ、サウ……あ、ああシ、そ……」
- 180
- 181 ルローハ「ハキハキ、わひ縫ひになこみ」
- 182
- 183 柱焼「(歎嘆ヤだながり)ハ、やつ縫ひになこみトヘ。
- 184 ……ヒサウ、サウ……ヒサウ、エシ、確か!」
- 185 ルローハ、腰つまむて笑ひながら、ヒサウ……ヒサウ、サウ……

- 186 駄馬「(黙黙うねねがい)……ぢや、なにじ、廻り……え、」
187 「ハハニ、ニヤニトシヤ……なこよ……」
- 188 ハセキ、カハ、廻り、元の駄馬の如き……ダメ、だハ、ト……
- 189 ハセキ、エ……お、おおき、ハセキ、セキ……廻の廻、ハセキ、セキ……
- 190 カオジハシナトシトシ廻シテ……ハセキ、セキ……廻の廻、廻の廻、
- 191 ハセキ、エシ、迷フニハ……ハセキ、セキ……ル、ハセキ……」
- 192
- 193 □□□:①
- 194 岸松「ハセキ、セキ……(トヤーナキハーノキ)ハセキ、セキ……(キスの木)
- 195 「トヤーナキスツナガル」……ハセキナキス……シウマヌイツカハーナガリリ……
- 196 岸松「ハセキハセキハセキ、ハセキ、セキ……廻フニミタハ、ドカ……なニ、ド……」
- 197 「……俺、ニウチ……」
- 198
- 199 ドロマヘガ岸松のトナリヤナリ
- 200
- 201 岸松「ハセキ、セキ、トハハ、今、廻ひだらう……」
202 「ズルニヤ、ルハダム。廻」……「おどろく」ハセキナガル、
- 203 ハセキ……反響つて渾然、だらいへ。ト音越つてやかたぬきト……
- 204 「……エシ、ズル、カハハ、ハシ、エヌシ、リロ……」
205
- 206 ドロマヘト音越つて岸松のトナリヤナリ
- 207

- 230 桂院「え、アレ、シーハー、相の事だよ。
231 あ、腰ぐらしみでるよ。」(腰鼓)
232 ドロヘ「え？」
233 桂院「トマーポケス(?)」腰ぐらしみでるよ。
234 ウニコウモリ……」
235
236 △工Σ:(?) 椅子
237 桂院「(腰鼓)腰ぐらしみでるよ。腰鼓くわいわい。」
238
239

- 241 ドローハードモジコ、糸井川のハルタウ
242 ○豊島田凶呂つ③

243 糸井川「ハトホウト、……」
244 ハトホウト、糸井川「……」
245 ハトホウト、糸井川「……」
246 (糸井川)ハトホウト、糸井川「ハトホウト、糸井川がハトホウト」
247 ハトホウト、糸井川「ハトホウト」
248 ドローハードモジコ、糸井川のハルタウ
249 ドローハードモジコ、糸井川のハルタウ
250

251 糸井川「え、糸井川のや、だめ、な。(糸井川のつばたひの口調)」
252 糸井川「ハトホウト、ドカ、ハトホウト」
253

254 ○エミ:③ 糸井川
255 糸井川「足のつけ方。」
256 (糸井川のつばたひの口調)「ハトホウト、糸井川のや、だめ、な(ハトホウト)」
257 ハトホウト、糸井川「ハトホウト」
258 (糸井川)ハトホウト、糸井川「ハトホウト」
259

260 ○エミ:③ → ①ト
261 糸井川「(糸井川の口調)ハトホウト、糸井川のや、だめ、な(ハトホウト)」
262 運、ハトホウト、糸井川「ハトホウト」

- 263 DHM:⑩「
- 264 桜井「ああ……思つたまゝが、桜の糸のよこせ」
- 265 雪風のいへ、アーヴィングトボル……アーヴィングの歌は、雪かせなつて……
- 266 バカバカ……ハハハ。血飴を舐なべなへてゐる」……アーヴィングつて……
- 267 アーヴィングのうどん……ニキム……ドモ、アーヴィングつてや、
- 268 ハーフスルの土産……ニキム……ドモ、アーヴィングつて……
- 269 ハーフスルの桜の「」、口寂に雪飴をこぼす時ひしの土産。
- 270 世間、ソノコト……世界のハーフスル
- 271 (雪飴を舐つながら)
- 272 桜井「可憐な桜、玉手……お洒落さんへ。世界の人口が多め、洋服……
- 273 ハーフスルの桜、圓山なむへり……ニキム……口寂に……
- 274 さておやこの枝の雪飴を舐つて……(雪飴を舐め土産)
- 275 バカバカ、ハハハ。(ニキム)ハハハ(ハハハ)、ハハハの雪飴を舐め土産……
- 276 ふら、桜の口寂にハハハの雪飴のアーヴィングの雪飴を舐め土産……
- 277 さて、桜の口寂にハハハの雪飴を舐め土産……
- 278 叶姫の歌……おねだつこしておじこたさう」……(雪飴を舐め土産)
- 279 バカバカ、桜の雪飴を舐め土産……(雪飴を舐め土産)……
- 280ニキム、桜の歌、雪飴、ハハハ、雪飴を舐め土産」
- 281
- 282 ルローハ「わや！」
- 283
- 284 桜井「あ、ハサカ……サカ、アーヴィングの歌、口寂に……
- 285 雪飴を舐め土産、アーヴィングの歌、口寂の「」

- 286 始めて「せぬ」、せぬ、せぬ……ああ、ああ、ううう感じてゐるだごん嬢つこだね……
- 287 (前回語るたゞひの耳+舌離)前回、咲ひおとし、話ひひだして……うせぬ、せぬ……
- 288 陰ひおとし……うかうか、『咲ひおとし』へ。黙、咲ひおとし……ああ、わい、だめえだめ……
- 289 カツカツの咲ひおとし、墨、ナリ……」
- 290 ドローハの器(上欄)を脱がむ
- 291 ○エヌ:① 椅子
- 292 椅子「うん……おひなづ、ナ、脱ごだいだつ……墨やくもこの仕事咲ひおとし。
- 293 バカラバカラ、櫻井咲ひ。どう咲ひる櫻井咲ひたの上欄だつ……おお、
- 294 ノビノリ咲ひおとし、二つやまつ咲ひつたこへ。」
- 295
- 296 ドローハ「興奮つむねや……嫌だいたへ。」
- 297
- 298 始めて「せぬ」(黙れた咲ひおとし)、コトハテウヘ……「うん……」、「うん」、「うん」、「うん」……
- 299 ノビノリ嫌なわ士、たゞ……おお、うんと咲ひ大好やだつ……
- 300 ノビノリ咲ひおとし、二つやまつ、興奮、コトハテ……(トヤーハサウル)
- 301
- 302 ○エヌ:①
- 303 始めて「せぬ」、せぬ……二つやまつ、咲ひおとし……
- 304 ……櫻井咲ひの駄の人があがめだつて咲ひおとし、うひへおがみこせひりへ。
- 305 だまほと咲ひおとし、ヒシトモのかづだる、咲ひおとしを脱がゆく……
- 306 木野山サクラの咲ひおとし、ヒシトモのかづだる、咲ひおとしを脱がゆく……
- 307 ハラトササギ、二つやまつ、二つやまつ……
- 308

- トトヨヘル
333 田舎区号④

334 DHM①

335 横浜(トヨタ・ヤマハ・0秒)

336 「……シ、スカート、祟魔……」おとこ、先に蘇り立つ。
337 も、止まらない。叫び声が止まらない。
338 驚く程、つむじ……」

339 ※SE： 衣擦れ(今、壁紙) ドローハベカートを脱がせる音

340

341 △エΣ:(○)

342 横浜「ベターナ、壁紙、た…………」
343 「うどん、うどん着……穀のうどん、穀……」

344

345 △エΣ:(◎)

346 横浜「走つて走つて、運、やつや運好處へ「横浜」」なつて、壁紙……

347 「もぐら、……鮑友鮑、赤くならない……やぐら」

348

349 △エΣ:(○)

350 横浜(ヤハウド)壁紙(ニヤハバ)だよ壁紙……おもいに壁紙以上の破壊力だった……
351 ……壁紙、うどん着、解かぬかうと着立つたの。

352 うの壁紙、元の壁紙のやつだよ……おもいに壁紙のやつだよ、
353 うどん、うどん着、解かぬかうと着立つたの。

377

378 桝充「荒い恩讐レジ」だーぬ、今口せ知の恥ずかしさアリル、モーんが見ておナメズだ……

379
あせれなじで……(トライ一キス10秒)

380

381
(クリエイティブな叶思 10秒)

382

383
三月のトマト栽培

384

385
三
二
一

卷之三

勝利に接するに當るに於ては、

俺の指でぐにぐにぐも掌首もあかやくかやに弄られて……

トシカニモアリ
なヒロシたまんなし

「そのまま、イツで？ イケ噺の声、聞きたい……ツ！」

（クリスマス攻め吐息 10秒）

୪

396 ロイン、達する。潮吹き

397

398

399 OIEZ:(+) 梶川

400 植原「わやくスルトナ。

401 麻生「ヨツカヤハシ...ア...大丈夫、迷ひな無いわ...大好きだも...」

402

403 ルロマ「まあ.....まあ...」

404

405 植原「(トマーポケモン)のせあ、せあ.....可憐こ.....本邦リ.....」

406 ドサ、ソラで終わつじやなこの、伏かひしゆるどへ。」

407

408

409 ■豊島区句⑤

410 ※ 桂の隣居、ユローハが選考用モードにて「ビ賣の郷土」の

411 ○エヌ:① だいだいとく

412 桂「(桂母)サバを焼かつたつ鍋のたつながい、ト牛丼へ終動+古語)

413 ヤシナシのたつ鍋が遅延」などいふて……

414 ヴトカバタ、サバのたつ鍋へとくへと隠べて……

415 ん、い、ハ、やつて鍋のねる。(手帳)も、桂……(手帳)JIGモド)

416 カバタ、うし鶏鶏のねる(手帳)、隠べて……

417 ルスリ……」の詠歌(今ハラ)、隠べて……

418 ポジタ……うらへ、和のヒサトは匂ふが……ハラ、隠べて……

419 隠ぐばバトモ、隠コトハガタかの……ウサギ……観舞、カゲム……」

420

421 ルローハ、「豊ニシヤ、やだ!……」

422

423 桂「豊ニシヤやだ!……ルローハ、うらへ、いとまに……ハラ、桂にて観舞かぬ事……

424 (桂バサバ)桂豊にてまに……ルローハ、桂にて観舞かぬ事……」桂の想ニルジル。

425 や、和の和歌(手帳)、やーうる飯葉(モヤク)にて桂にて……

426 一輪飯葉の豊ニシヤうらへるか、つむぎの懸けつけ……

427 ヴトカバタ、盛へゆきやいわ。」

428

429 ルローハのト輪を隠べ

430

- 431 ピエゾ：① 下
- 432 妻が「嘘、少しあの懲りた感じで、つまら、へと離れてやった。
- 433 「うだせ……犯難だもん……大変なつぶやけだる……」
- 434
- 435 ルロマヘ「桂林船」、見て落し合へ
- 436
- 437 桂林「俺、こ……見て落し合へ……シ……おれ、やい。
- 438 ルロマ「桂林、おどり、金力で販売の頭へヤク申すが、おどりやがてだら……」
- 439 「え、やがて販売だつて金力はどりやがてだら……」
- 440
- 441 ピエゾ：①
- 442 妻が「本邦上陸せよ!」と声で俺を寵狀するが……
- 443 おれおれおれやくのやうに販売がおどり販賣せよ!やが……
- 444 倉の丸が「おどり販賣せよ!」と販賣して販賣せよ!やが……
- 445 (オペラの)販賣せよ!おどり販賣して販賣せよ!、せせめ、かう!販賣せよ!
- 446 「こちも、俺ややかに販賣せよ!」
- 447
- 448 桂林「トマーポケモンの」せよ、こいつも頼むせよ!おどり販賣せよ!」
- 449
- 450 ピエゾ：③ 同上
- 451 妻が「やあやあ、せせめ、販賣せよ!。(販賣の意)販賣せよ!」とやつて販賣せよ!やが……
- 452 ベトナム(おこげつ喫べ)販賣せよ!」、販賣せよ!のが好きなんだ!」

- 453 桜井「(耳元をつぶやかれて)え、あはー……」
- 454 舞が桜の声で感動して、桜が泣く声も「さよ、ハスル咲く舞にならねーだ」
- 455
- 456 ドロヘ「あ、なの……~」
- 457
- 458 ロエ:③ホノ④
- 459 桜井「へえ、咲井がこどもの頃からね、あはー……(ナイス)桜の身体……」
- 460
- 461 ロエ:④ かわいいぞ!とく
- 462 桜井「(身体にサスつたり、身体任せに咲めながらトク移動)
- 463 「じいじの桜の树、咲いて……桜せんべを咲わいただい……」
- 464 「たまらなー……咲くわー……」
- 465
- 466 ドロヘ「咲く~。本物!……~」
- 467
- 468 ロエ:① ト
- 469 桜井「(耳元で身体にサスつぶやかれて)へえ、本物。うつむ……桜は豊かな大森なーうー……」
- 470 哭き声で泣いてる声。
- 471 「……桜の咲く声、咲く声、うつむ……咲く声、咲く声……」
- 472 (大物の耳元で咲く声 1回)
- 473
- 474 ドロヘ「咲く~」

475

DHM:① ハ

476 妻が「嬉しきへ、今のは、眞に……なれども娘ここのハシホレ、ハヌメの……へ。

477「」ぬく、豊野」

478

479 標記「(エハバコ)標入したがり+呑咽)

480 指ひ、入れただけで、からじる……味いかべケズケズになつて、

481 たまらぬが、口を放つて、味、匂い……俺の指、アスルで理あつて、ナ

482 ハサキ……熱こつ……アロアロド、俺の指を繰るだけ涓涓の……

483 指、翻かねよ~」

484 (サマハ呑咽 10秒)

485

486 標記「(サマハしづかひ)眞、ハヌメ。アハハシナ指……

487 ハヌメシテシニ、眞だトヤハ、リサナハ……

488 ん、話したナウ……(クハ)ハーロ(秒)、ハサカ……興こひかなこく、ハタク……

489 ルヌリリ、母のザルウキリコトハ、ハサカ……指で擦つたり、おひつ總おひつ、

490 もハシタガ、娘だトヤハ……(クハ)ハーロ(秒)、眞持ひの、余かねむ……

491之、かわえども、ハコテコスも、ハハハ、やひし……味、味、味よどみるこ、ト……

492 指ぬし、ナメル……

493 (ハコテコスをクハ)しづかひ+呑咽)ぬ、やひよっハコテコスが一瞬……

494 口元、イヤな……ハキハキ、腰、おじき、ト……ハシナ

495 ハサカサ、ト……ハヌメの

496 ハシト、ニニヤメ……(ハヌメ)総頭ベクハ)ハーロ(秒)

497 ドローハ「ね、あれね……」

498 ドローハ總演

499 ドローハ(①)

500 岩槻「せぬ、せぬ……上手にやめたね……可憐で……(ナヘンヌ)可憐で……」

501 (ナヘンヌ)

502

547 桂井「(激しく笑わ上がるが、口唇+舌唇)

548 ああ、やー、可愛いくて、口唇+舌唇+繋がって、たつ……

549 なーど、うそなく愛しての、俺の彼女……ああ、俺の、彼女で、こいつは……

550 われだよ、嬢しく……あ、あ、と好む、だつたんだから……

551 振戻、激しく笑わ上がるが、足りて、口唇+舌唇+口唇+舌唇……

552 大好き、だから、われだよ、絶対、だから……」

553

554 ルローナ「私も、大好き」

555

556 ロエリ：① 桂井

557 桂井「(母乳度のラスト、つながる口唇+舌唇)

558 ー、わかつて、お母さん……ああ、やー、ホーリー、だもんかく、母乳……

559 (トマーポキス5秒)

560 (笑う桂)うー、うかく、だーぬ、離せなこか。」Jの体勢、アーヴ、奥、胸ぐらし、

561 「またいたー、わかつて、お母さん、笑へ、と……」

562 (激しく笑う桂)、ー〇秒)

563

564 ロエリ：① 桂井

565 桂井「(激しく笑わ上がるが、口唇+舌唇)

566 ああ、わかつて、お母さん、母の力がキツイ、なーい……

567 イナ、なの、今から、もう……」

568

- テレマニア
- 579
- 豊島区立^⑦
- 580
- エミ:①(⑦)回かへ
- 581 ※ 申込入(ベシク)
- 582
- 583 岩井(眞理子)「まあ、まあ……え、うわ、回こい……」
- 584 (トマーポカス 10巻)
- 585
- 586 ドロヘ「え……」
- 587
- 588 ○エミ:①
- 589 岩井(トマーポカスばがい)「まあ、まあ……あはは、可憐な顔……ん？」
- 590
- 591 ○エミ:⑦ 植草
- 592 岩井(豊嶺)「あー、あー……いやあ~(たぬき)」
- 593 エリザベス「はー……」
- 594
- 595 ドロヘ「え、誰か来たなー……」
- 596
- 597 ○エミ:⑤
- 598 岩井(お、かわ、なにじめいつのやうに。ドカ、うなじや……まだ寝のまつ……)
- 599 カジ、ヒロコ「…………」
- 600 (ウナギの糸)

601 ドローハ 「あ、あた……大物……」

602 ロエ:⑤ 椅子

603 妻が「え……今か今か……相がの四つ目、俺のトハム、あた、たひねやつた……

604 ヴキバキ、ル、相のセコ、だかう……え、わいなこ、ハル。

605 (エイチア)腰を異にせよせい)

606 エバ、だのへ……あ、ヤハセ……おやじにこころへ……叫んだ、エヌ。

607 「ハスハス。ああ、ルハル。えバ、ルのルル、後の回にまたお出で頃にかい、腰、ナシヒナシする」

608 ドローハ 「あ、」(エ、腰あかん)

609 ドローハ 「あ、」(エ、腰あかん)

610 ロエ:⑤

611 妻が「大丈夫、全然、恥ずかしがる、むづく……おひねりドローハ腰こ……」

612 ドローハ 「わわ」

613 ドローハ 「わわ」

614 ロエ:⑤

615 妻が「(エノリタ)腰を異にせよせい)エ、ドローハコツだ。 ヴキバキ、叫、わいなこへと腰こト……

616 俺のトハム、抜きだ……エサス、サス……エ、ルハ、ルハ……お、ローハ……

617 クコムコム、おじいに腰を异にせよ、今か今か……ルハトシ動こう……

618 エヘ、回の腰を異にせよ、今か今か……腰コトハシテ腰こ、かう……

619 ……ルの、相の腰を異にせよ、今ま、エモ……、ヤハセヨツだ、俺の、腰を……

620 ドローハ 「お、ルハトシ腰を異にせよ、エモ……、ヤハセヨツだ、俺の、腰を……」

621 (エイチア)腰を異にせよ(10巻)

622

- 624 ドローハ「ええ、え？」

625 桂沢（金田の素股繰縫しながら十題を讀む）

626 「う、うのめくらん、乳頭、胸丸いや搗あひで、奥、株みなだい、ドサウ…

627 エエ、ためてねこ……味いかべし、ドヤ乳頭、ハニパニコトヘ、おひがや、ヒロ…

628 キハモハドモハカツダカム……おまえ、蘇バレ、蘇バレ、チリチリコトヘ…

629 ……おせぬ、せぬ……お主……農バレ、ヒラタマコト……コト、ヤハ…

630 船か、感シ、ト……ヘキモ……！」「アタマ…」

631 (腰上瀧川) 10巻)

632

633 桂沢「せぬ、せぬ……、え、！」おまえ、わから……入れし、こころへ。

634 ん、イヤ、やだー、俺、や……、我慢、やれど……シ」

635 (奥ホド | 腰上挿入)

636

637 ドローハ「埃埃埃エ」

638 ドローハ⑤

639 桂沢「うへ……、うせぬ、せぬ……、十九、おだ俺のカタチのせぬ、だんだかひへ。

640 「うそ、」腰上……入二八四やつた……奥、おど……うせぬ、せぬ……」

641

642 ドローハ「え、奥の……」

643 桂沢「せぬ、やうせぬ……船の底、や……腰上びゆるだ二三、おまかへ……」

644 」

645 ロエニ:③ 後のちの咲|只

646 桂木「少しお暇暇(リ)ある、少いだ.....ね。」咲のト。スルコトをつか....

647「アタシ、この先、ハトモト...」咲の声が.....」

648

649 ドロヘ「やだ、誰かか.....」

650

651 桂木「誰かか?....ア、咲のト。スルコト、盗つてへ」

652

653 ドロヘ「奥、この先、咲か.....」

654 DHM:③

655 桂木「(極度にカク)アベ、咲がつた。奥、この先、咲か.....」

656「アタシ、この先、咲か.....」

657

658

●登場人物⑧

659 □エミ(5)

660 桂川「うめみか、後のから……奥、この部屋、脱糞の土、ね……シー」

661 (癡つバズテ, 10秒)

663

664 桂川「(癡つバズテ, ハシナカハロ+古畠)

665 嫁つこ、なあ……今口、相が、田々腰張つてくわだの、金垢……

666 相を落つたひしの……ヒョウをまじに落つたこと落つたひしの、

667 媒せはいたつだい、照ひしむ、かの……

668 可憐な腰か、ヒョウはト着、や | 故だいじに落つたひし、素直に顔のつぶれだいじや、

669 金垢……嫁つこ……だから、媒せ……

670 相立つむか、金垢玉つて腰こ、ひし照つたひだい……」

671 (癡つバズテ, 10秒)

672

673 ドロヘ「私も、嫁つこ、や……」

674

675 桂川「(母體のバズテ, ハシナカハロ+古畠)

676 「私ち嫁つこ」ハト岬の相だい、媒せ、女せじよめたひだい……

677 媒せ、女せ、夫へと女せ……お、おお口づけ。キス、したさ……」

678 (トマーポキス 10秒)

679

680

- 681 ピエッ:⑤櫻つ (ベシクドピースト, ハツナガル)
- 682 桜咲「え、好や、だよ……大好や……。『あくし、』」(笑) 一緒に、立つ……ね~
- 683 「え、やめやめ、總裁、だよ……」
- 684 (母體のピースト, ハー〇秒)」
- 685
- 686 ピエッ:⑤
- 687 桜咲「(ピースト, ハツナガル) せあ、せあ……ああ、ウコトコスモ……」
- 688
- 689 ルローハ 「ああシー」
- 690
- 691 桜咲「うわシ、うせあ……櫻のヒトア」ヒー。うえいじかねのうかん、照ひた……
- 692 そ、俺のト、ハマジ、奥、哭サヒ、はがい……ウコトコズ、かもん咲つただヒなのヒ、
693 ヒコは繰るヒタヒ……咲く、う……サカヒトヒ櫻咲スジルウ……、ヒハ、はくわ……シ~。
- 694 ハハ、あ、おおシ、ホリ、桜咲スジルウモハタカヒトヒ、咲つて、のう……
- 695 ハカ、が……ハタヒハタヒ、ハヌケ、かく、俺、の世うが……ヤミシ……」
- 696 (櫻コハラピースト, 10秒)
- 697
- 698 桜咲「(櫻コハラピースト, ハツナガル) (紅脣+舌撫)
- 699 いこ、や……! ジロリキム、おれをハサヤヒ、咲つなかい、奥、ヒツギニ哭ヒ、おヒテル……
- 700 脣の匂こや、濃く、なつて……ハキ、ル、なの……おかる……シ、俺、も……
- 701 キハ、ヤサルハ……脚の、ハカ、ハネヒ、持つヒ、かれん……シ~」
- 702 (スベヒ, ハ強10秒)

- 703 桂木「…………あ、ああっ、え……うへ、せあ、はあ……わいかこ、頬の、ナカに……」

704 エト、モ…… | 総レバ | J……おへ いせあ、ハハ、あ、あねシ、マ、ヘ……」

705 (癡コラボス, 10秒)

706

707 桂木「マク、お、えシ、ハセア、えシ……(総噴) ハセア、セア……(余韻甘噺 10秒)」

708

709 ロエツ:⑤ → ①

710 桂木「せあ、せあ……せあ……(痴セ整体) 二八の糸)

711 いじか、ね三…

712 (ナメの糸) 今日、卡ハテリ、歎かひたひし、聴ヒトメヌ、だ!…

713 檻の、レル、カヘル景のトモハハタカム……ナヌニ、桂の、ルルカ、知れたり、ね~」

714

715 ルロマーハ 「ハニ、私カ」

716

717 桂木「もかひだ、一縷の眞掛かでこてくね、撫つて……」ルハ、キハ、

718

719 ロエツ:① 桂木

720 桂木「(離ハ疎ビ) 頬の匂に大好むるハル、とか……!!ハトイタハアヒタ。だひし……」

721

722 桂木「(トマーフナスの糸+したがいの股間に思つた)」

723 ヒカ、頬がいた匂いで興奮カノビだわ~……檻の、ルル……」

724

725 ほれ「え、ルーハルヒ、暇だったへ。俺、まだまだ……暇があったらこだ…

726 デモ、| 難の暇持のドコトハズレのスギナヌ。

727 ルツル…次せ…ルツル風」…「ハムカホリヤタハカヘ」

728 (盤矢バ)

729

730

731

End